



管理

- [Cisco Jabber の設定, 1 ページ](#)
- [ユーザ デバイスの追加, 2 ページ](#)
- [ユーザ デバイスへの変更, 6 ページ](#)
- [一括設定, 7 ページ](#)
- [ユーザへの指示, 7 ページ](#)
- [ポートとプロトコルのリスト, 8 ページ](#)

Cisco Jabber の設定

この一連の手順を実行して、Unified CM 上ですべての Cisco Jabber 機能を設定し、デバイス上で Cisco Jabber を設定する方法をユーザに説明します。

次の手順を順序どおりに実行してください。

- 1 基本テレフォニー機能を設定したテスト デバイスを追加します。
「[ユーザ デバイスの追加](#)」を参照してください。
- 2 テスト デバイス上で追加機能を設定します。これらの機能はオプションです。
「[機能の設定](#)」を参照してください。
- 3 テストデバイス上ですべての機能が動作することを確認したら、個別のユーザとデバイスを一括で設定します。
「[一括設定](#)」を参照してください。
- 4 ユーザに Cisco Jabber クライアントの設定方法を説明します。
「[ユーザへの指示](#)」を参照してください。

ユーザ デバイスの追加

はじめる前に

- どのデバイスにも適用できる標準的な手順に従って、このデバイスに割り当てる拡張機能としてボイスメールをセットアップしてテストします。エンタープライズ VoIP またはモバイル コールを使用してボイスメールシステムに接続できるように、ボイスメール番号は必ず通常の電話番号としてセットアップします。
- Cisco Jabber for Android デバイスに割り当てる予定のデバイス プールに、G.711 コーデックのサポートを含む領域が関連付けられていることを確認します。
- 各ユーザについて、使用状況およびエラーのトラッキングを無効にするか、それとも有効にするかを決定します。詳細については、[使用状況とエラーのトラッキング](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [Unified CM の管理 (Unified CM Administration)] ポータルにサインインします。
- ステップ 2** 新規の Cisco Dual Mode for Android 電話デバイスを次のように追加します。
- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
 - b) [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - c) [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストで、[Cisco Dual Mode for Android] を選択します。
- ステップ 3** [デバイス情報 (Device Information)] に設定値を入力します。
- (注) これらの値には、Cisco Jabber for Android だけを対象とするわけではない制約および要件が適用される可能性があります。デバイス設定ページのオプションに関する詳細情報が必要な場合は、Unified CM のオンライン ヘルプを参照してください。
- a) デバイス名を入力します。
次のようにデバイス名を指定します。
 - BOT で始まらなければなりません
 - すべて大文字でなければなりません
 - 最大 15 文字まで使用できます
 - 使用できる文字は、A ~ Z、0 ~ 9、ダッシュ (-)、または下線 (_) のみです

シスコは、覚えやすいようにデバイス名にユーザ名を含めることをお勧めします。

例：

ユーザ jsmith の場合にお勧めするデバイス名は BOTJSMITH です。

- b) [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]には、[Standard Dual Mode for Android] を選択します。
- c) ユーザがコールを保留にした場合に相手側に保留音が聞こえるように保留音をセットアップします。この手順により、相手側を混乱させずに済みます。

- メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)
- ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)
- ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)

これらの設定は、このデバイスだけに限った設定ではありません。詳細については、[Unified CM documentation](#) を参照してください。

- d) ユーザがデスクフォンを所有している場合は[プライマリ電話回線 (Primary Phone)]にデスクフォンを選択します。

ステップ 4 [プロトコル固有の情報 (Protocol Specific Information)] に設定値を入力します。

- a) [デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)] ドロップダウンリストで、[Cisco Dual Mode for Android - 標準 SIP 非セキュアプロファイル (Cisco Dual Mode for Android - Standard SIP Non-Secure Profile)] を選択します。

(注) このプロファイルでは SIP ダイジェスト認証は無効になっています。

- b) [SIP プロファイル (SIP Profile)] ドロップダウンリストで適切な SIP プロファイルを選択します。

[Create dedicated SIP profile](#) を参照してください。

このマニュアルでは、[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)] セクションのうち、Cisco Jabber for Android に固有の値についてのみ説明します。場合によっては、デバイスが正しく動作するために、Cisco Jabber for Android に固有というわけではない、他のプロトコル固有値を入力する必要があります。

ステップ 5 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションに設定値を入力します。

- a) [Cisco Usage and Error Tracking] ドロップダウンリストで適切なレベルの使用状況トラッキングを選択します。

[使用状況とエラーのトラッキング](#) を参照してください。

- b) [アプリケーションダイヤルルール URL (Application Dial Rules URL)] フィールドは次のようにします。

- Unified CM Release 8.6 以降の場合、このフィールドはブランクのままにします。

Unified CM 8.6 以降の場合、[コールルーティング (Call Routing)] > [ダイヤルルール (Dial Rules)] > [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)] の順に選択してアプリケーションダイヤルルールを設定します。アプリケーションダイヤルルールのセットアップについては、ご使用のリリースの『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』 ([Unified CM メンテナンス ガイド](#) 一覧から入手可能) で関連する章を参照してください。

- Unified CM Release 8.5 以前のリリースを使用している場合、Cisco Jabber for Android デバイスでアプリケーションダイヤルルールを適用するためには、それらのダイヤルルールファイルへのパスをファイル名を含めて指定する必要があります。

次のフォーマットを使用します : `tftp://TFTP サーバの IP アドレス/XML ファイルのパス名/XML ファイル名`

- c) ディレクトリ サーバで認証が必要な場合は、LDAP のユーザ名およびパスワードを入力します。そうでない場合、これらのフィールドはブランクのままにします。全ユーザに対して単一の読み取り専用アカウントの LDAP 資格情報をセットアップすることができます。これらの資格情報は、TFTP ファイルのプレーンテキストでクライアントに送信されます。そのため、LDAP ディレクトリの管理者には、他の権限を一切持たないディレクトリクエリ アカウントを生成することを強く推奨します。そのアカウントは、資格情報が確実にセミパブリック（ローカルネットワーク上のすべてのユーザが使用可能）になるような低い値で作成してください。

- d) [緊急時電話番号 (Emergency Numbers)] フィールドに、指定の緊急時電話番号を入力します。このユーザに変わって必ず直接ダイヤルされる追加の緊急時電話番号をコンマ区切りのリストにして入力できます。これらの番号に、数値以外を含めてはいけません。スペース、ダッシュ、およびその他の文字も許可されません。

デバイスに対して定義した緊急時電話番号は、モバイルネットワークを使用して（エンタープライズ VoIP を使用してダイヤルするのではなく）必ず直接ダイヤルされます。これにより、救急サービスの隊員に発信者の場所を自動的に送信できます（そのようなサービスが利用可能な場合）。直接ダイヤルされる番号は、次のような状況で便利です。

- モバイル ネットワーク プロバイダーがある国以外の国にユーザがよく行く
- 緊急時電話番号が各ユーザの場所によって異なる
- 会社に専用のセキュリティ番号がある

- e) [システム (System)] > [サーバ (Server)] の Unified CM Administration の設定値が、ドメイン名を含まないホスト名である場合は、[ドメイン名 (Domain Name)] フィールドにドメインを入力します。

例 :

`cisco.com`

- f) [設定済みの Wi-Fi ネットワーク (Preset Wi-Fi Networks)] フィールドに、最大 3 つの SSID をスラッシュ (/) で区切ったリストを入力します。ここにリストした SSID またはクライアントでユーザが選択した SSID にモバイルデバイスが接続した後にのみ、Cisco Jabber for Android は Unified CM への接続を試みます。これらの SSID に接続した場合に Cisco Jabber for Android は Unified CM に到達できなければなりません。通常、これらは社内の Wi-Fi SSID です。SSID は最大 32 文字で、大文字小文字の区別があります。

- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。
- ステップ 8** [[回線 *number*] - 新規 DN を追加 ([Line number] - Add a new DN)] を選択します。
- ステップ 9** このデバイスの電話番号 (DN) を入力します。
この DN は新しいものにすることができます。これと同じ DN を持つデスクフォンは不要です。
- ステップ 10** (オプション) デバイスの発信者 ID 設定を入力します。
- a) [電話番号情報 (Directory Number Information)] セクションの [ルート パーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストで、電話番号が属するルートパーティションを選択します。
 - b) (オプション) [説明 (Description)] フィールドに、電話番号とルートパーティションの説明を入力します。
 - c) [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドに、発信者 ID に対して表示する名前または電話番号を入力します。
 - d) [ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドに、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を入力します。ただし、入力は ASCII 文字に限られます。
 - e) [デバイス *device name* の回線 *number* (Line number on Device device name)] の [表示 (発信者 ID) (Display (Caller ID))] フィールドに、発信者 ID に対して表示する名前または電話番号を入力します。
 - f) [ASCII 表示 (発信者 ID) (ASCII Display (Caller ID))] フィールドに [表示 (発信者 ID) (Display (Caller ID))] フィールドと同じ情報を入力します。ただし、入力は ASCII 文字に限られます。
 - g) 必要に応じて [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] フィールドに、この回線からコールを発信するときに発信者 ID 情報の送信に使用する電話番号 (またはマスク) を入力します。
 - h) コール転送時に発信者名を表示するには、[デバイス *device name* における、転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device device name)] で、[発信者名 (Caller Name)] チェックボックスをオンにします。
 - i) コール転送時に最初にダイヤルされた番号を表示するには、[ダイヤル番号 (Dialed Number)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 11** このデバイスがスタンドアロンデバイス (デスクフォンと DN を共有しない) の場合は、[コール転送とコール ピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Setting)] 領域で次を設定して、Cisco Jabber for Android が非実行中でネットワークに接続していないときにはコールを転送するようにします。こうすると、発信者がエラー メッセージを受け取らずに済みます。
- a) 未登録内線の不在転送 (Forward Unregistered Internal)
 - b) 未登録外線の不在転送 (Forward Unregistered External)
- これらの設定の詳細については、Unified CM のオンラインヘルプで [不在転送 (Forward All)] などの設定を参照してください。
- ステップ 12** [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)] を 24 秒に設定して、コールをボイスメールに転送する前に Cisco Jabber for Android が呼び出し音を鳴らす時間を持てるようにします。Unified CM のオンラインヘルプで、一般的な制限について参照してください。

- ステップ 13** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 14** ユーザの [エンド ユーザ (End User)] ページに移動します。
- ステップ 15** このユーザ用に作成した Cisco Dual Mode for Android デバイスを関連付けます。デバイスを関連付けた後、[制御するデバイス (Controlled Devices)] ボックスの [デバイス情報 (Device Information)] セクションまたは [デバイスの割り当て (Device Associations)] セクションのいずれかに表示されます (Unified CM のリリースによって異なる) 。
- ステップ 16** このユーザがデスクフォンを所有している場合は、そのデスクフォンをプライマリユーザデバイスとして選択します。
- ステップ 17** 関連するデスクフォンなしで動作するスタンドアロンデバイスの場合は、システム内のすべてのデバイスで標準となっている他の情報の入力が必要になることがあります。
- ステップ 18** [保存 (Save)] を選択します。

次の作業

次のようにして、設定が動作することを確認します。

- モバイル デバイスが企業ネットワークに接続されていることを確認します。デバイスのブラウザを使用して社内イントラネット上の Web ページにアクセスできることを確認します。
- Cisco Jabber for Android を起動して、セットアップウィザードを完了します。TFTP サーバの IP アドレス (通常は、Unified CM サーバの IP アドレス) と先程追加したデバイスのデバイス名 (BOTXXXX) を入力します。セットアップウィザードの実行方法については、エンドユーザ向けの [FAQ](#) を参照してください。
- デバイスが登録されたことを示す通知が出されるまで待ちます。Unified CM にデバイスが接続すると、ステータス バーの Cisco Jabber のアイコンが黒になります。
- コールの発信、保留、転送など、Cisco Jabber for Android の基本的なテレフォニー機能をテストします。

ユーザ デバイスへの変更

[Unified CM の管理 (Unified CM Administration)] ページの設定 (LDAP、コール制御、ダイヤルプランなど) を変更すると、[保存 (Save)] をクリックして [設定の適用 (Apply Config)] をクリックした後、Cisco Jabber for Android はそれらを登録します。このアプリケーションの再登録は 30 秒後に行われます。アプリケーションが登録するときにユーザがコール中である場合、そのコールはドロップされ、アプリケーションは自動的に再起動します。変更を適用するときにデバイスが対応範囲外にある場合、アプリケーションは後で Unified CM に登録するときにアプリケーションを更新します。

Unified CM からデバイスを削除すると、Cisco Jabber for Android はアクティブなすべてのコールをドロップし、登録を数回試行した後、ユーザは接続できないことを知らせるエラーメッセージを受け取ります。クライアントの情報は、デバイスから消去されません。すべてのクライアント情

報を削除するには（たとえば、従業員が退職する場合など）、Microsoft ActiveSync などの適切なデバイス管理ソリューションを使用してください。

デバイスを削除するには、該当するリリースの『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』にあるトピック「Deleting a Phone」を参照してください。これは、[メンテナンスガイド一覧](#)から入手できます。

一括設定

このマニュアルに記載された情報を使用して、テストユーザおよびデバイスを個別に設定し、それを基礎にユーザとデバイスを設定するための一括管理テンプレートを作成してください。

一括処理の準備ができたなら、ご使用の Unified CM リリースに対応する『Bulk Administration Guide』の指示に従ってください。これは、[メンテナンスガイド一覧](#)から入手できます。



(注) デバイス構成ページの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションにある設定は、エクスポートされたスプレッドシートで個別の列としては扱われません。これらすべての設定、およびそこに含まれた情報は、デバイスごとに 1 つのセルの XML コードとして出力されます。このセルにあるユーザ固有の情報を編集する場合は、慎重に行ってください。

ユーザへの指示

Unified CM で、デバイスのセットアップが完了したら、ユーザに次の情報を提供してください。

- 企業 Wi-Fi ネットワークにモバイルデバイスを接続するための操作手順。この手順は、Cisco Jabber for Android とは関係ありません。
- Cisco Jabber for Android を設定するための手順を含むユーザ用の資料。[FAQ](#) から入手できます。



重要 ユーザが最初に Cisco Jabber for Android を設定するときに社内ネットワークの外にいるときは、社内ネットワークへの VPN 接続を使用する必要があります。ユーザは Cisco Jabber for Android を使用する前に、この VPN 接続を設定する必要があります。

- Google Play（以前は Google Android Market と呼ばれていました）から Cisco Jabber for Android をダウンロードおよびインストールするための手順。
- たとえば BOTJSMITH など、ユーザの Cisco Dual Mode for Android デバイスのデバイス名。
- TFTP サーバの IP アドレス。

- (該当する場合) ユーザが SIP ダイジェスト認証に必要な資格情報。[SIP ダイジェスト認証 (SIP Digest Authentication)] を有効にし、Unified CM に手動で認証するようにユーザを設定している場合、これらの資格情報を提供する必要があります。
- (該当する場合) Visual Voicemail にアクセスするためにユーザが必要な資格情報。
- (該当する場合) 社内ディレクトリにアクセスするためにユーザが必要な資格情報。推奨されるユーザ名の形式は、`userid@company.com` または DN の完全な形式 `cn=userid,ou=organization,dc=company,dc=com` のいずれかです。
- (該当する場合) ユーザが VPN を使用して社内ネットワークにリモート側からアクセスするために必要な情報。Cisco AnyConnect Secure Mobility Client などの VPN クライアントをユーザがダウンロード、インストール、およびセットアップするのに役立つ手順を提供します。

Cisco AnyConnect Secure Mobility Client を使用するようシステムをセットアップしている場合、ユーザは、[ユーザガイド一覧](#)の最新の『*Android User Guide for Cisco AnyConnect Secure Mobility Client*』から、Android デバイスでクライアントアプリケーションをインストールおよび使用する方法についての情報を入手できます。

ユーザは Cisco AnyConnect Secure Mobility Client アプリケーションを次のいずれかの方法で入手できます。

- **手動での方法** : ユーザに、Google Play から無料で Cisco AnyConnect Secure Mobility Client および Cisco Jabber for Android アプリケーションを手動でダウンロードするように依頼します。



ヒント これらの 2 つのアプリケーションへのリンクを内部 Web ポータルにホストして、ユーザがそれらを見つけやすくなるようにします。

- **自動化された方法** : Mobile Device Manager (MDM) ソフトウェアを使用してアプリケーションをデバイスにプッシュし、デバイスが登録後に 2 つのアプリケーションを自動的に受信するようにします。MDM の使用方法についての詳細は、関連するサードパーティの資料を参照してください。
- ユーザが問題レポート (トラブルシューティングログ) を送信する際の宛先となる電子メールアドレス。

ポートとプロトコルのリスト

次の表に、Cisco Jabber にあるポートとプロトコルを示します。各エントリの持続期間は「エフェメラル」です。

表 1: Cisco Jabber のポートとプロトコル

機能	プロトコル	ネットワーク プロトコル	ポート	備考
Unified CM の登録	TCP	TCP	5060	Unified CM の登録の SIP ポート
インターネット通話	TFTP	UDP	69	該当なし
デスクフォンの統合	QBE	TCP	2748	該当なし
メディア	RTP	UDP	16384 ~ 32766	この範囲は、デバイス設定ファイル内で Unified CM によって指定されます。これらはデフォルトの値であり、任意の有効なポートを指定できます。
ディレクトリ	LDAP	TCP	389	LDAP (オプションで TLS を使用)
Unity Connection ボイスメール	VMREST	TCP	143	該当なし
Unity Connection ボイスメール	VMREST	TCP	7993	IMAP (SSL/TLS を使用)

